

令和2年度 学校の経営

(1) 学校教育目標

<基本目標>

自ら考え判断し、進んで行動できる生徒の育成

～富中生活心得 「時を守り 場を清め 礼を正す」の実践～

<具体目標>

① 目指す生徒像

○夢に挑戦する富中生（志）

- ・将来を見通し、夢や希望に向かって努力し、明るく生活できる
- ・自己を前向きに理解し、よい点を伸ばし、改善点を改善していこうとする意欲をもつことができる
- ・自らの進路実現を目指し、自己を向上させようと努力することができる

○思いやりのある富中生（徳）

- ・誰にも明るくあいさつができる
- ・相手と自分との違いを認め、互いに支え合い、高め合うことができる
- ・困っている人の存在に気づき、どうすべきかを考え、実行することができる

○共に学び合える富中生（知）

- ・日常的な学習習慣を身に付け、日々の目標に向かって主体的に歩むことができる
- ・仲間と共に学び合い、刺激し合う中で自らの考えを積極的に発信できる
- ・自ら課題を見つけ、課題解決に向かって多面的に捉えることができる

○心身を鍛える富中生（体）

- ・健康安全に留意し、日々落ち着いた生活を送ることができる
- ・基本的生活習慣を身に付け、苦手な分野にも少しずつ挑戦できる
- ・我慢強く最後まで取り組もうとすることができる

② 目指す学校像

○生徒、保護者、地域、教職員が誇りをもてる学校

- ・生徒が学びたくなる学校
- ・保護者が子どもを通わせたい学校
- ・地域が生徒の活躍する姿を見ることができる学校
- ・教職員が働きたくなる学校

○安心安全に生活できる学校

- ・生徒と教職員が共に元気にあいさつし、笑顔にあふれる学校
- ・掃除が行き届き、温かい雰囲気の中で歌声が響く学校
- ・学習環境が整い、生徒が学習する意欲に満ちあふれている学校

○地域と共に歩む学校

- ・地域に信頼される学校
- ・地域との交流を積極的に行う学校
- ・地域と学校の課題を共有し、互いに協力し合える学校

③ 目指す教職員像

○信頼される教職員

- ・教育公務員としての深い自覚と高い規範意識をもつ教職員

○学び続ける教職員

- ・指導力の向上や人間力の向上を目指し、自身を磨き続ける教職員

○一致団結する教職員

- ・学校課題解決のために、チームの一員として全力で取り組む教職員

(2) 学校経営方針

《基本方針》

- ① 学校・家庭・地域が一体となった信頼される学校づくりに努める。
- ② 生徒と教職員が共に「富中生活心得」を日常的に意識し、師弟同行の実践に努める。
- ③ 特色ある教育課程の編成・実施・評価に努め、校内の教育活動への全教職員参画の意識をもち、たくましく生きる力の育成を目指す。

《具体方針》

- ① チーム富中として
 - 全教職員が4ワーク（フットワーク、ネットワーク、チームワーク、ハートワーク）を機能させ、互いに連携しながら総力を結集した学校運営を推進する。
 - 教職員一人一人が「自分の学校」という意識をもち、全教育活動を自分事として捉え、全教職員が一致団結して取り組んでいく。
 - 「報告・連絡・相談 → 即対応」の実践に努め、様々な課題に対して全職員で情報共有し、迅速で的確な対応を図る。
- ② 生徒の学びへの支援
 - 学ぶ意欲の向上と確かな学力の定着を図るため、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践に努める。
 - 生徒の学習への興味関心を高めるため、ICT機器を活用し、楽しく学べる授業づくりに努める。
 - 生徒が生き生きと活動しようとする心を育てるため、行事や授業の中に豊かな体験活動を計画的に取り入れる。
 - 一人一人の生徒の教育的ニーズを配慮するため、日常的に特別支援教育の視点に立った授業を心掛ける。
- ③ 安心安全な学校づくり
 - いじめ防止基本方針の下、日常の生徒観察や教職員の情報交換を充実させ、いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見・早期対応に努める。
 - 生徒の自己有用感を高めるため、一人一人の生徒が学校生活の中で達成感や満足感を味わうことができるような学年学級経営に努める。
 - 道徳教育を充実させ、生徒と教師、生徒同士の対話を通して、様々な考え方に気づき、他を認めようとする広い心を育てる。
- ④ 家庭、地域及び小学校との連携
 - 各種たよりの定期的な発行やHPを充実させた情報発信に努めるとともに、地域に積極的に出向き、地域からの情報収集に努める。
 - 学校の情報と地域の情報の共有化を図り、学校運営における地域との協働を意識した地域とともに歩む学校の実現を目指す。
 - 小中連携や家庭・地域との連携を充実させ、学校と地域との交流を積極的に推進し、地域を知り、地域に誇りと愛着をもてる生徒の育成を目指す。

(3) 本年度の努力点

- ① 確かな学力の向上
 - 新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識しながら、職員一人一人が常に授業改善の意識をもち、授業の中に対話を通して深く考え、表現する場を意図的に取り入れた生徒主体の授業づくりを目指す。
 - 授業の中の「めあてーまとめー振り返り」を充実させることで、わかる喜びやできる喜びを実感させ、次の学びにつなげようとする意欲をもたせる。

○思考力・判断力・表現力等を育成するため、問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れる。

② 豊かな人間性の育成

○自己有用感を高めるために様々な体験活動を充実させ、自分らしく前向きに進んでいこうとする態度を養う。

○たくましさや優しさを兼ね備えた生徒の育成を目指し、道徳科の時間を核とした道徳教育の工夫・改善に努める。

○地域人材の活用や地域での体験活動を重視した学習を継続して推進し、郷土に誇りと愛着をもった生徒を育む。

③ 健やかな体の育成

○体育行事や部活動に積極的に参加する態度を養い、有能感や達成感を味わせるとともに、進んで身体を鍛えようとする態度を育てる。

○心身共に健康な生活習慣の育成を図るために、家庭と十分に連携し、食育を充実させる。

○生徒の危険予測能力及び危険回避能力を育成するために、安全教育や防災教育の充実を図る。

④ 学校経営の充実・改善

○受容と共感に基づく指導や人権教育の充実に努め、生徒指導部会や教育相談部会を活用し、組織的な取組及び情報共有に努めるとともに、いじめ未然防止や不登校生徒の改善を図る。

○教師自身が言語環境の改善を意識した実践に努め、互いに認め合い高め合う集団づくりを通して、特別支援教育の充実を図り、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係づくりに努める。

○働き方改革を推進し、国、県、市の方針を受け、現存の業務に対して見直し、工夫、改善を行い、全教職員で実現可能なことを計画的に実践していく。

⑤ 教職員の資質能力の向上

○校内研修を充実させるとともに、一人一研究授業に積極的に取り組み、教師による日常的な授業公開を推進し、互いに授業を参観し合う機会を積極的にもつ。

○服務規律の確保と人事評価制度の適切な運用を通して、教師の使命感の高揚や職能成長を図る。

○ベテラン教職員がもつ実践的な指導技術や知識等を組織的・計画的に若手職員に継承していくための校内OJT体制を充実させる。

⑥ 小中連携の充実

○校区内小学校と教育課程や生徒指導計画等について共通理解を深め、9年間を見通した系統性・一貫性・連続性のある教育を進める。

○小中学校相互の授業参観や職員の合同研修会等を計画的に開催するとともに、児童生徒や職員の交流を積極的に推進する。

○小学校から中学校への英語学習の円滑な接続を図るため、担当教諭の相互の授業参観や指導法についての話し合いを積極的に進める。

⑦ 家庭・地域との連携

○教育活動への地域人材の活用を推進するとともに、地域の諸会議に積極的に出向き、地域からの情報や意見を収集し、学校と地域の課題の共有に努める。

○Webページや各種通信の活用を通して、生徒の活動や学校の様子を家庭や地域に積極的に情報発信し、学校の実情についての理解を図る。

○地域内の公民館やボランティア団体と連携し、可能な範囲で生徒ができるボランティア活動を積極的に生徒に紹介し、地域理解を推進し、地域との積極的な交流を図る。

